

寺
こよみ

十 月

一日 お講・板屋

三日 雪華院隆弘法師三回忌
法要

一六日 お講・三田市
一七日 善巧寺お経会

報 恩 講

一九日 午後一時 速夜

午後七時半 初夜

二〇日 午前七時 晨朝

午前十時 日中

午後一時 満座

布教 川崎順正 師

二二日 富山・報恩講

二二日 東狐・青木・報恩講

二六日 田家・窪野・経田・

柳沢報恩講

二七日 『お寺座サロン』

― 須田開代子とともに ―

二九日 新浜・飯野・報恩講

三〇日 板屋・報恩講

三一日 雪ん子劇団小松へ

寺 報

善 巧

発 行

〒 938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山 497
白雪山 善 巧 寺
TEL・FAX (0765) 65-0055
TEL オテラザ 65-0975

十月三日午後二時
隆弘法師三回忌法要

十月十九、二十日
報 恩 講

十一月四、五日
空 華 忌



雪華院隆弘

釋 僧 銘

雪華院隆弘法師三回忌法要は来る十月三日午後二時から、善巧寺本堂に於いて営まれます。若はんが亡くなってから、まる二年の歳月が過ぎました。あつと云う間もなく過ぎたと云いましようか、それとも追憶の悲しさに、長かった期間と云いましようか。亡き人の面影は、今も眼前に、生きていて、私達に迫っています。残された著書を読むと、その生き生きた語り口から、故人の教え説いた事柄が目に見えるように伝わりますし、写真に残されているあの時、この時の表情には、今でも生きていて、明るく語りかけてくるような気分になります。何本かのビデオには、もつと現実的に、生前の生き生きた姿が活写されていますし、幾つかのテープには、法話の数々が肉声で伝わってきます。今でも、私の周囲は、故人の面影で満ちているといつても過言ではありません。併し、平成二年九月十七日に、亡くなったと云う事実はどうしようもありません。しかも、五十と云う若い年齢で他界したことは悔やんでも悔やみ切れません。三回

雪華院三回忌を迎えて

忌と云うのは、故人を偲ぶ一つの節目です。故人の頭の中には何時も、門徒の方々のことがあった筈です。この節目の法要に当たって、全門徒が参集して、三回忌をつとめることは、故人を偲ぶと云うだけでなく、善巧寺の今後を、故人の望んだ方向に向けて進めて行く思いを抱くようになります。

隆弘著「ブッド・バイ」から引用しましょう。

「その父から、私は二年前に入院した時、一度だけ便りを受け取った。むずかしい老僧だから、長い説教でも書いてあるかと思いきや、たった一行「おい隆弘、人間、生きたる間は生きたるぞ」とあった。生きている間は生きている。そうだ、本当にそうだ。生きている間は生きているのだ。死についていかに考えようと、生きている間は生きているのだ。うれしい一言だった。私の生きる支えとなった。今日一日今日一日、生きている間は生きている。他に何の不足があるう。」

十月三日には、皆さん、是非お参り下さい。

住職 雪山俊之



五百年五十年法要記念講演 ③

行信教教授

梯 實 圓 師

これが「往生要集」の一番大切なところでして、ご開山は読み込んでいらっしゃる。親鸞聖人は源信僧都があらわそうとされた本願の信心をお正信偈の源信章のなかで、「極重の悪人はただ仏を称すべし、我もまたかの撰取の中にあり、煩惱眼をさえてみだてまつらずといえども、大悲ものうきことなくして常に我を照らしたもうと言えり」と源信僧都の「往生要集」のお言



ただいてとなえることのできる「南無阿彌陀仏」を選びとって、お願いだから私の名をとえながら私の国に生まれてきてくれよ、と願ってくださった。「極重の悪人は他の方便なし、ただ阿彌陀を称

葉をあげて讃詠されています。自らの力で自分を救うこともできず、自分で自分を整えることのできない私のような、死ぬるまで煩惱にまつわられたおろかな凡夫を見捨てたまうことなく、どうぞ助かってくれよ、どうぞこの親に助けさせてくれよ、と願いをこめて私たちのために立ち上がってくださいのが阿彌陀さまだ。だから阿彌陀さまは、誰でも、いつでも、どこでもい

ただいてとなえることのできる「南無阿彌陀仏」を選びとって、お願いだから私の名をとえながら私の国に生まれてきてくれよ、と願ってくださった。「極重の悪人は他の方便なし、ただ阿彌陀を称

して極楽に生まる」こう源信僧都は教えてくださったのでございませう。私は妄念煩惱に狂わされて仏さまの姿を拝むことのできない愚かな者だけれども、仏さまの御名をとえ如来さまの親心を仰ぐ私は、仏さまのお慈悲の光の中におさめとられておる。念仏の衆生を撰取して捨てないとお誓いあそばした「仏説観無量寿経」の言葉によれば、私もまた阿彌陀さまの光の中におさめられておる、愚かな私はその仏さまの光を拝むことはできないけれども、「大悲ものうきことなくして常に我を照したもうなり」こう源信僧都はおっしゃった。これが、ご開山のお心を打つんですね。

しかしこの源信僧都のお味いはお師匠さんの慈悲大師良源の意見をひっくり返しています。阿彌陀さまの救いは、功績に対するごほうびとは違うんだ、と言われるんですね。親が子供の面倒を見るのは、子供が功績を上げたから面倒見るのと違う。生まれたての子供を面倒見ずにはおれない、その子供に全身全霊を注いで、その子供を育てずにはおれない、見捨てておけないのは親心の必然なんだ。阿彌陀さまの救いというものは、功績に対する褒賞じゃなくて、大悲

と願いかけられた言葉です。実に広い願いでございませうね。そうしますと、あなたにも私にも如来さまの願いが宿されているんだ、ということにまず気付かせていただく。

次に「至心に信樂して我が国に生まれんとおもて乃至十念せん」もし生まれずは正覺を取らじ」とお誓いになっています。「至心」というのは真実ということ、「信樂」というのは疑いなくということ、ですからほんまに疑いなくということが「至心信樂」です。「欲生我國」我が国に生まれんとおもえ、我が国に生まれるんだと思ってくれよということなんです。これが仏さまの願いでございませう。私にどう思ったらいいのかそれを指示してくださいるんです。「乃至十念せよ」すなわち十念に至るまでせよ、というのは、たとえわずか十べんでも私の名をとえながらその人生を生きてくれよ、ということなんです。これが仏さまのお願いです。そして「もし生まれずは正覺を取らじ」もしお前をお浄土に生まれさせることができないようならば私はまさしく目覺めた者と呼ばれる資格はないんだ、わたしが仏になったら阿彌陀仏としての名にかけて必ずお前を浄土に

生まれさせる、こうお誓いになつて
いるんです。これが第十八願でござ
います。このお言葉の中に自分の生
きる意味と方向を聞き定めていく、
これが浄土真宗を聞くということです。

お前一体誰なんだ、と言われた
時に、お前は一体どっちに向かっ
て生きているんだと言われた時に、
即座に私は阿彌陀さまの子でござ
います、そして私は阿彌陀さまの所
へ生まれさせていただきます。こう
ズバツと答える事のできるような、
そういう心境を開いてくださるお言
葉なんです。七高僧の伝統という
ものは、そして親鸞聖人が確立さ
れた浄土真宗の伝統というものは、
この仏さまの願いの言葉の中に、
自分の生きていることの意味と方
向を聞き定め、思い

定めてきた歴史なんです。

そのことをもっと詳しくお話
させていただきたいと思うん
です。考えてみますと、私の生
きている意味と方向といいました
けれど、私は一体何者なのかっ
ていうのは大変なことですよ。
「お前は一体何者だ！」といわ
れた時に皆さんどう答えます？
私は先程紹介していただいたよ
うに「梯實圓」というんです。
私は梯實圓です、というたらこ
れは名前でございます。私その
ものではございません。名前は
他の人と区別する時に便利にす
るために付けただけなんです。
私にとってこの名前は別に必然
的なものではない。だって、私
が生まれた時名前はなかったん
だもの。生まれた時、名前がな
かったらわたしでないのか？そ

んなことはない、私は私です。
そうすると、お前誰だといわれ
て、名前を言わなかった私の本
体を示したことはない。名前
でなしに本当のお前はなにもの
だと言われたら、あんな方返事
できませんか？これは大変難し
い問題です、今から千三百年程
前にインドにシャンカラという
哲学者、宗教家がありました。
これはインドの哲学的宗教であ
るベーダンタ学派の大成者です。
このシャンカラという人は、死
んだのは三〇そこそこだった
んですが、そういう人が千何百
年あのインド文化圏の思想信仰
をリードしているということに
なりますとすごいと思うんです。
命というのは長い短いはあまり
関係ないですね。とにかくこの
シャンカラは、弟子がやってき

た時に必ず聞いたのが、「お前
は誰だ」だったそうです。そし
たら弟子が「私は何の某（なにか）
です。父は：母は：、そして家系は：
でございます」こういうとシャ
ンカラは「俺は名前を聞いてい
るんでも家系をたずねているん
でもない、お前がなにものだっ
て聞いているんだ」と言われた
そうです。そう言われると返事
ができなくなってしまう、私は
なにものかわかりませんと言っ
た時に、それを学ぶんだ、それ
をしつかり学ぶんだ、と言った
そうです。そういうば道元禪師
も「仏道を習うというは自己を
習うなり」といっています。「お
前誰だ」と言われた時に即座に
返事ができるように、そういう
人間になっておけというんです。
そのシャンカラ自身が、十いく

つである師匠についたその時に、
師匠がシャンカラに「お前は
何者だ」と聞いたそうです。その
時彼は即座に「私はブラフマン
である」と言った。「ブラフマ
ン」というのは、インドでは宇
宙の根源的実在です。万物はそ
れによって在り、その万物をあ
らしめている根源的な実在であ
る。そのブラフマンである、と
言ったそうです。そして師匠
匠様が、インドはえらい人は高
い所にいるんですが、その高い
所から降りてきまして、そして
シャンカラの手をにぎって、私
はあなたのような人が来るのを
待っていた、一緒にそのブラフ
マンの心を学びましょう、とい
って師匠が手をとってくれたとい
う有名な話があります。

(つづく)

雪華院釋隆弘法師 三回忌法要 十月三日午後二時

ご講師 行信教授教授
あぐる 瑞夢先生

厳しい残暑のあとの秋風が心地良いこととございます。
皆様にはお健やかにお念仏およろこびのことと存じます。

「若はん」こと隆弘法師がお浄土にかえってまる二年。頼りないことこの上もなく……、
が、仏となつていつてもどこでもと思うと、この上もなく安心なこととございます。

上記の通り三回忌法要をつとめます。有縁の方々相集い、聞法のご縁を結んでいただ
ければうれしゅうございます。隆弘法師を偲びながら、今ともに逢えるよろこびを味わ
わせていただきますように。どうかおさそい合わせお参り下さいますよう、ご案内申し上
げます。

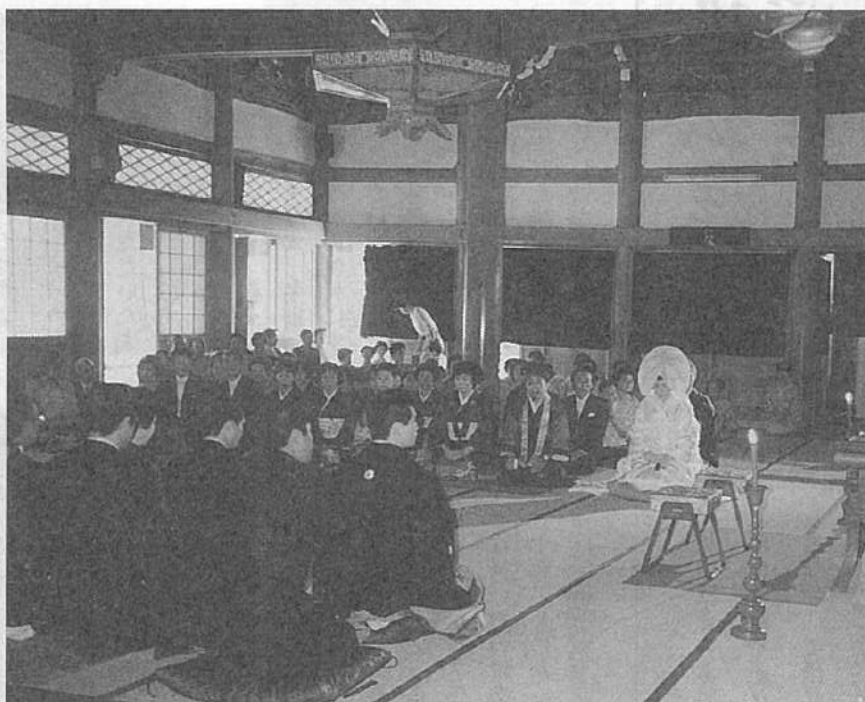
善巧寺内一同



康 彦さん
ひとみさん

おめでとう

九月一日、善巧寺本堂に五色の幔幕が初秋の風になびきました。若い二人を寿ぐように、空は澄んで青く、木の葉は緑深く。楽の音とともに、紋付袴の花婿と、白むく姿の花嫁がまわり緑を通して入堂、「まるで紀子さまのよう」と境内の見物の人々から声が上りました。赤いろうそくのゆれる本堂、左右に数かれた緋毛せんには両家の親族が並び、その後には「仏前結婚式」を一目見ようと近郷近在の人がつめかけました。讃仏偈のおつとめのあと、司婚者の住職の誓いの言葉に、深くうなずく二人。めでたく結ばれて記念の念珠をかけて、そろってお焼香。最後に、厳かに恩徳讃が流れ、全員で唱和すると、感さわまってハンカチで目頭をおさえる姿が見られました。俳優のような新郎「康彦さん」、明るい笑顔の新婦「ひとみさん」。逢えてよかったね。これからは二人で、よろこびを倍に、悲しみを半分にと。どうぞお幸せに。



古式ゆかしく雅やかに——仏前結婚式



夢と感動よぶ

雪ん子劇団

暑い夏でした。雪ん子劇団は、七月はJ.E.T.、八月は庄川、お寺座、高岡、そして九月は立山町と、とびつきの忙しさ。あちこちがうかがって元気はつらつです。幼児からお年寄りにまで、夢と感動をおわけしています。夏の定期公演には高岡派本山の新聞さまが観劇、京都からは小学校の先生方も団体でみて下さいました。これからまだまだ国民文化祭、YKKの文化講演会とビッグな公演が続きます。北日本、富山、朝日、読売と、新聞社の取材も連続です。

児童109人交流 雪ん子劇団が熱演 高岡 仏の子供の集い

高岡市東上岡の西本願寺
高岡会館で二十六日、「仏
「うちの父



「うちの父...」
雪ん子劇団の演技に会場が沸いた仏の子供の集い
八二七 北日本新聞

秋に劇団の 小説が出版

雪山 玲子さん



児童劇団「雪ん子劇団」は、小学館から小説「雪ん子劇団物語」が出版された。玲子さんは、小学館から小説「雪ん子劇団物語」が出版された。玲子さんは、小学館から小説「雪ん子劇団物語」が出版された。



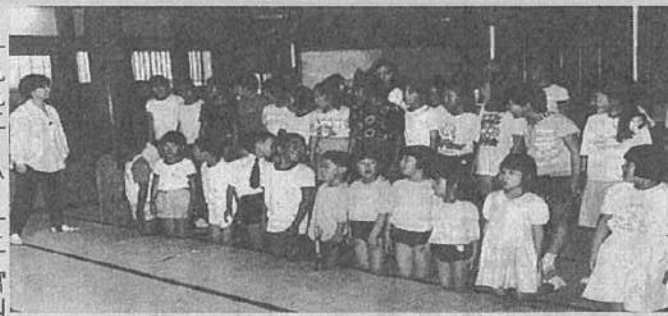
子供たち約百人の前で手話...
「舞台のないところで上...」
「雪ん子劇団主宰・宇奈月...」
「北日本新聞」

「雪ん子劇団」引っ張りだこ

宇奈月の善巧寺 県内外16市町村で公演
拠点に活動



「うちのとうちゃんえらいんだ」の本盤での練習風景。古里宇奈月のPRも忘れない



「もっと声を大きく」。女先生・雪山さん(左)の指導は時には優しく、時には厳しい

秋 国民文化祭にも参加 今 劇団紹介の小説出版

同劇団は、同寺住職の雪山(玲子)が、山崎さん、故人、玲子さん、雪山さん、鬼ごが終...
「うちのとうちゃんえらいんだ」の本盤での練習風景。古里宇奈月のPRも忘れない

宇奈月清山の善巧寺を拠点に活動している児童劇団「雪ん子劇団」(雪山玲子)は、今年、県内外16市町村で公演活動を行うほか、石川県で開催される国民文化祭にも出演する。活動を紹介した児童小説「雪ん子劇団物語」が、秋、小学館から出版される。あつて、子どもたちは「女先生・雪山さん」とともにますます元気に頑張っている。



祠堂会のご法話—高務哲量師



黒西組連研スタート



大橋の総代、大
教良造さんのお骨
折りで、庭の木の
枝払いをしてもら
いました。朽ちた
木が二本見つかり
処分しました。こ
れで近所へご迷
惑かけずにすみま
す。おかげで日当
りが良く、明かる
くなりました。



雪ん子劇団代表 雪山玲子さん(50)



「喜び」「幸せ」探し続ける

肩書は、寺の坊主(ほうしゅ)だが、堅苦しさがない。大きな瞳(ひとみ)を輝かせて、表現としての言葉にこだわらぬ。よく笑い、愛い(あい)をすべてこめてしまふような底抜けの朗らかさもある。

宇奈月町蒲山の寺の子供たちは「雪ん子(せんにきょ)」の「五先生」と呼ぶ。副住職で夫の師匠さん(しゅうしやう)と十九年、地元の小生対象の「雪ん子劇団」を創設した。寺を舞台と法事だけの場にしたくない。昔、この寺の回公演を、観客も延べ

は社長で偉いんだ」と自慢するのに対し、農家の子は「うちだってみんなのこ飯(くわい)の二つに、手話(てわ)ミューシカル「うちのこと」のCMを作っている。運(うん)転手(てんてん)の子も「大切な荷物運(うん)つたんだから二番偉いんじやないか」と加えた。夫は、一昨(こぞ)年秋、夫はガンで亡くなった。

悲しみの中で思い出したのは、かつて夫に、演劇活動の喜びの涙を聞いたことだ。子供(こども)のころ読んだ「少女パレアナ」(エレナ・ボター作)。孤児(こり)パレアナが、いやがらせを受けながら、どんな事にも喜びを見つけて出すことで周囲の人たちの心を温かく変えていく物語だ。この少女のように、どんな悲しみの中でも、いつも喜び、幸せを探しながら生きていこう。一だから出会いこそ、私の生きていることの原点なんだ。

—朝日新聞—

寺
ごよみ
十一月

一日 お講・愛本新

雪ん子国民文化祭出演

生地順昌寺

継職披露法要

空 華 忌

四 日 午後七時半 初夜

五 日 午前七時 晨朝

午前十時 日中

午後一時 満座

講話 騰 瑞夢 師

今年のご講師は、行信教授、尼崎市の騰瑞夢(あぐるすいむ)先生です。善巧寺へのご出講ははじめてです。

明教院さまのご法事に、ぜひおさそいあわせお参りください。

六 日 「雪ん子」YKK公演

七 日 上野・報恩講

一二日 出・報恩講

一四日 中新・報恩講

一六日 魚津・報恩講

一六日 お講・浦山新

一七 日 お経会

一八 日 中陣・報恩講

一九 日 柗沢・報恩講

二四 日 浦山新・報恩講

二七 日 石田・報恩講

三〇 日 石田・報恩講

九月一日 火曜 晴
今日は、司婚者の役をしなくてはならない。仏前結婚式の司婚者役である。過去、何度かの役をしたが、随分前のことで、細部は忘れていたことが多い。善巧寺本堂が式場で、法輪寺にお聲さんが見えると云うお目出度い結婚式である。昭和四十一年三月十三日には、現法輪寺住職夫妻の結婚式に私が司婚の役をしているので二代に亘っての司婚で年月の経過の早さを今更感ずる。

新郎新婦とは、一週間前に、リハーサルをした。若い二人の初々しさを羨ましく眺めたものだった。
十時から始める予定で、手伝いのおばさんが会場である本堂や、待合室になる集会場の掃除に来る。
私は、表白文に、念入りに目を通す。
十時 喚鐘 三奉請 表白 嘆仏 偈 單念仏 回向 法輪寺の親戚法中数名が助音して下さる。
新郎新婦が並んで立っている前に歩みよって、仏前に誓いを



住職日記

「敬に伴う愛を以て能く夫たるの本分を盡し終生苦楽を共にせんことを誓わるべし」
新夫が神妙にうなづく。終わって、数珠の授与があつて、司婚者退場となる。どうやら無事に役目を果して、宇奈月のホテルの披露宴会場に向かう。此処でも、私には、スピーチの役がある。最近の結婚披露宴の形式は、私のような老人には、派手と云うか新式と云うか何となく肌に合わない。

色直しのたびに新郎が傘をさして出て来たり、ケーキを切ったり、途端ドライアイスの煙が立ち上ったり、当世流のショウアップである。同僚、親戚、先輩、旧師合計百名の参加者だった。
ホテルの御馳走を頂き、若い諸君のスピーチやら、楽器演奏を聞き、帰ったのが三時。
友人からの著書が送られて来ていた。題して「哲学と宗教と人生」。書斎で、一通り、目を通す。夕食は、結婚式引出物の中の、お赤飯ですます。
煙の鳴き初めてより筆を擱く魁けて萩の花咲く祝の日



OB・OGも踊りの輪に——8・15



ハートスポットで成人を祝う会——8・15



高田派新門様、雪ん子をご観劇の翌朝——8・23



花の会、コスモホールで演劇鑑賞——9・5

- | | |
|-----|------------|
| 一〇日 | 下村・大橋・報恩講 |
| 一日 | 下立愛本・報恩講 |
| 二日 | 中ノ口・報恩講 |
| 三日 | 愛本新・報恩講 |
| 四日 | |
| 七日 | |
| 一〇日 | 下村・大橋・報恩講 |
| 一日 | 下立愛本・報恩講 |
| 二日 | 内山・赤田・報恩講 |
| 六日 | お講・浦山 |
| 一五日 | 音沢・報恩講 |
| 二二日 | |
| 二三日 | 雪ん子劇団新人公演 |
| 三〇日 | お寺の学校・もちつき |
| 三一日 | 除夜会 |

寺
こよみ

十二月



雪ん子「ジャバンエキスポ富士」へ
エキスポ劇場で舞台の下見をする
雪ん子たち
7・19



おいしいお菓子とお茶がついて、楽しくてためになる、カルチャーシリーズ第三弾！

『お寺座サロン』

―須田開代子とJLBC―

●十月二十七日午後七時半

●『お寺座』

会費 千円（お菓子代含む）

お申込みは十月二十日まで

・お寺座事務局

○七六五（六五）〇九七五

・善巧寺 共

○七六五（六五）〇〇五五

門徒報恩講 10/21から

十月十九・二十日の報恩講「ホンコサマ」が終わると今年の門徒報恩講ははじまります。二十一日の富山地区からはじまって、三月の浦山までの半年間、皆さまのお宅におうかがい致します。今年は、善巧寺から若坊守、法輪寺から住職、照行寺からは主に若院がお伺いします。よろしくお願いいたします。



プロボウラー須田開代子さんとジャパン・レディーズ・ボウリングクラブの皆さんをお招きして「お話とトークショー」が開催されます。この会は二年前の九月二十七日に予定されていた。緊急入院した隆弘法師が、この日までに元気にならねばと皆さんに招待状を出して楽しみにしていたものです。病状の悪化で「気心の知れたお友達だから、中止させてもらっても了解してもらえよ」と急ぎょ病院から中止の電話をかけたのがつい昨日の様に思い出されます。「須田さんのお話とーあとはJLBCの人達におまかせだ」との「お寺座」主人の思いをそのままに、今回の文化サロンになりました。二年ごしの念願の催しであります。どうぞお誘い合わせ、心暖まる「お寺座サロン」へおこし下さい。

雪ん子劇団
ビッグイベントつづく

うれにうれている雪ん子劇団、この秋も更にビッグな公演に挑戦します。まず十一月一日開催の第七回国民文化祭・石川92、僕と私の夢フェスティバル小松・全国児童演劇祭。これは、全国で児童演劇を楽しんでいる人達



が、一堂に集い、楽しさにあふれた舞台を構成し、次代の文化の担い手である子供達の創造力と感性を育むことを趣旨として行われるものです。京都・名古屋・小松・金沢の劇団との交流会もあり、雪ん子にとってまた新しい世界が開けます。

十一月六日は、YKKの国際会議場での文化講演会に、女先生の講演と雪ん子のお芝居をということでご招待をうけました。この文化講演会には、長島茂雄、池田満寿夫、小沢昭一、林真理子、如月小春など各界の著名人がよばれていたもので、地元からの出演ははじめてとのこと、担当の方々の熱心な心意気に、こちらも熱いものを感じて良い舞台をとほり切っています。一般の方々の観劇もできるそうです。めったに入れない国際会議場、行ってみませんか。

お経会 はじまる

隆弘法師の祥月命日、九月十七日夜、若はんを偲ぶ会主催のお経会が開催されました。総代会、白鶴会、夢を語る会、花の会からの聴講者二十名は、高務哲量先生の正信偈の講義に、熱心にメモをとっていました。石田から電車でかけつけた総代さんは、本堂に座布団を並べるなど大張り切り。一月で中止に

合 掌

初秋の宵、隆弘にさそわれてミッシェル・マイスキーのチェロ演奏を親子で聞きに行きました。テレビや写真で見るとよりずっと素敵で、生の迫力に圧倒されました。二曲目に、あの、小三治さんのいう「雪山さんの曲」がうたうように、ささやくように流れてきました。たとえようもなく甘く深いチェロの音、もう、思い出ほろぼろ、涙ぼろぼろでありました。

七月からこつち、名古屋教区、四州教区、川崎教区と遠方からもおさそいをうけ、恥かしながらもおたずねしています。よそのお寺を見せていただくことも大変勉強になります。

金沢の児童劇団さくらんぼの公演を観劇、中学・高校生の質の高い演技に刺激を受けました。雪ん子OGに話したら「私達も是非やってみよう」

